



Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録 () 平成18年度:35-37.

NICU面会制限緩和の検討：祖父母面会導入への取り組み

本村, あゆ美 ; 平野, 由紀子 ; 結城, 和美 ; 塩谷, 今日子 ;
久保, 治美

NICU 面会制限緩和の検討

— 祖父母面会導入への取り組み —

周産母子センター NICU ○本村あゆ美、平野由紀子、結城 和美
塩谷今日子、久保 治美

はじめに

出生直後から分離を余儀なくされる児と両親にとって、NICUにおける面会は母子関係を形成する上で重要である。その反面、児の安静保持及び感染予防や医療・看護の効率面から制限をしている施設は多い。当施設では両親の24時間面会を可能とし、両親以外は窓越しの面会でターミナルなど特別な場合のみ入室を許可してきた。

その中で両親から祖父母の入室面会を希望する声がかかれていた。そこで実際にどの程度、両親以外の面会ニーズがあるのか実態を調査した。その結果から祖父母面会のニーズに応えることが母子関係形成に効果的な支援になるのではないかと考え、導入を試みた。その過程と結果から、NICUにおける面会のあり方について検討したので報告する。

I 研究方法

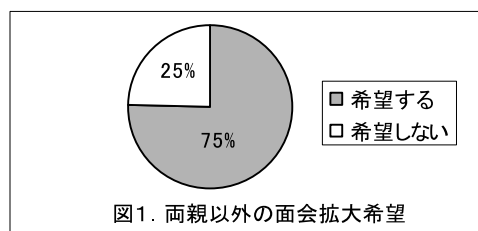
1. 期間：平成17年1月～平成17年11月
2. 対象：1) 祖父母面会導入前の平成15年1月～平成16年12月までに当NICUに入院した児の両親112組（回収率58%）。
2) 祖父母面会を導入後の平成17年6月～10月に当NICUに入院した児の両親と祖父母44組（回収率44%）。
3. 方法：1) 質問紙調査（1）祖父母面会導入前：面会者に関する希望など（2）祖父母面会導入後：面会に対するニーズや面会後の感想など自由記載も含めた。
2) 祖父母面会の状況調査①面会者 ②面会時間 ③滞在時間 ④面会内容の4項目とした。
4. 分析：質問紙調査の結果を単純集計し、祖父母面会導入後の対象の属性と合わせて考察した。
5. 倫理的配慮：研究目的とプライバシーの保護を文書にて説明、質問紙は無記名とし同意・回答の得られた場合のみを対象とした。

II 結果

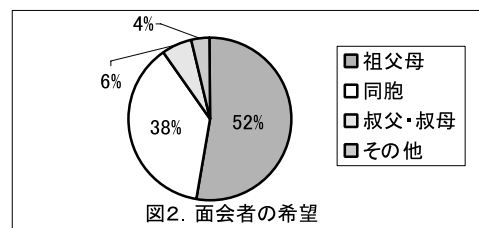
1. 祖父母面会導入前の質問紙調査の結果を図1、図2

に示す。

- 1) 回答を得られた65組のうち、両親以外への面会拡大希望は49組（75%）であった。



- 2) 面会者の希望は祖父母43組（52%）、同胞31組（38%）であった。

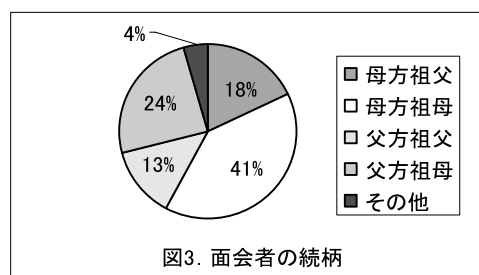


2. 祖父母面会導入後の対象の属性

平均年齢は父32.2歳、母は28.8歳。出産経験は初産が19名（43%）、経産が25名（57%）。家族構成は核家族38組（86%）、祖父母と同居6組（14%）。住所は市内20組（45%）、市外24組（55%）。児の状況は単胎43名（98%）、双胎1組（2%）。出生体重は、1000g未満6名（14%）、1000～1500g未満23名（52%）、1500g～2500g未満15名（34%）。在胎週数は24週～30週未満10名（23%）、30週以上34名（77%）。出生場所は院内出生36名（82%）院外出生8名（18%）であった。

3. 祖父母面会の状況

- 1) 面会者：母方祖母が41%と最も多く、次に父方祖母が24%であった。



2) 面会時間：13時から15時が最も多かった。

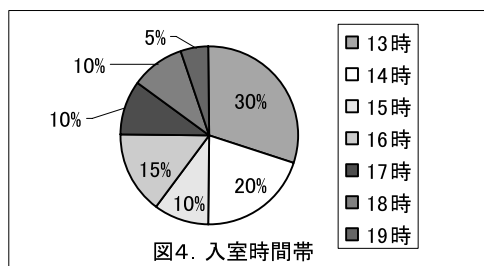


図4. 入室時間帯

3) 滞在時間：滞在時間は10分以内が最も多く、ほとんどが30分以内に面会を終了していた。

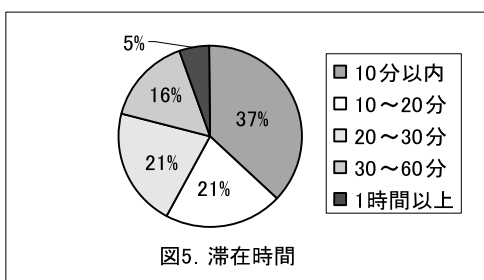


図5. 滞在時間

4) 面会内容：抱っこは44%が行っており、33%がタッチングしていた。また沐浴は17%が行い、少数ではあるが6%は授乳も行った。

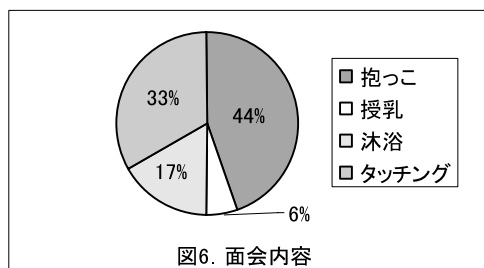


図6. 面会内容

4. 祖父母面会導入後の質問紙調査の結果を図7、図8に示す。

1) 面会時間：62%の両親が祖父母面会は院内の面会時間に準じて設定した13～19時でよいと答えた。しかし、祖父母に対しての24時間面会希望も33%あった。

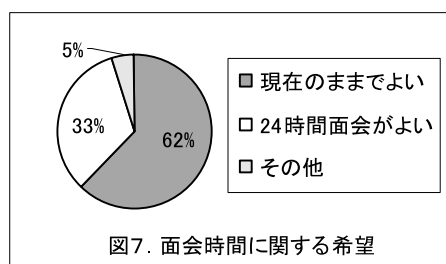


図7. 面会時間に関する希望

2) 面会様式：両親の希望であること、両親のいずれかが同席すること、一度に入室できる人数は3人までだが面会回数や滞在時間は制限しないことを原則とした。この方法での面会継続に76%の両親が同

意した。しかし、両親と祖父母全員の4人以上での面会希望も14%あった。

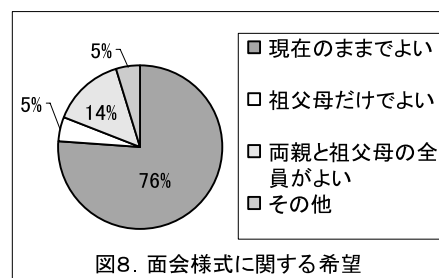


図8. 面会様式に関する希望

3) 祖父母面会導入後の感想・意見

全体的な感想として、窓越しの面会ではなく直接顔を見ることで会えない時でも児の顔を想像出来てよかったなどの感想があった。また両親からも祖父母が孫を抱け、喜んでもらえよかったなど肯定的な内容であった。家族空間への配慮に関しては、隣とのスペースを分ける仕切りの希望があった。スタッフの対応に関しては、優しくサポートしてもらえ安心できた・親切的な対応で満足しているなどの意見があった。

III 考察

導入前の調査結果から、祖父母面会に関するニーズが高いことがわかる。当センターは市内外からの母体搬送が多い。母の退院後は面会の送迎や同胞を預けてくるなど、ほとんどが祖父母のサポートを受けている。池内は「祖父母の児に対する思いも両親に大きく影響する。面会を通して効果的に家族参加を援助することは夫婦の絆や児への愛着を深め、未熟な母性の成長を促すことができる¹⁾」と述べている。両親にとって支援者となる祖父母の面会は重要な役割を果たす可能性が高く導入する意義は大きいと判断する。

導入後の祖父母面会の状況では、母方祖母の面会が最も多い。宮崎らの調査にある育児の相談をしたい人は「配偶者」と「自分の親（児に対する祖父母）」が上位を占める²⁾という結果と一致している。親の支えとなるのは「配偶者」だけではなく「祖父母」との面会により、児の状況を実際にみて共通理解をし、話し合える相手を作ることができる。精神的負担の軽減や親子の愛着形成にとってよい影響があると考えられる。

また面会中、滞在時間やケアの参加の制限はしなかったが、長時間の面会、授乳や沐浴などケアの参加を行なったケースは少ない。このことから、面会において新しい家族の紹介をすることや、祖父母にも児に直接触れ状況をみてもらい共感しあえることが重要視されている

と考えられる。

今回の導入では、直接患者に影響するような問題は発生していない。導入後の調査結果でも、両親や祖父母の多くが肯定的な意見を持っていることがわかる。しかし、同胞の面会など様式に関しては変更を求める意見も聞かれ、全てのニーズを満たしたとはいえない。スタッフからは祖父母の面会継続については同意を得られている。しかし、プライバシー保護など改善すべき課題も提示されている。

当センターでは、正常新生児の場合は出生直後から母子同室としており、これは1989年に国連総会で採択された「子どもの権利条約」の第9条親子不分離の原則からも当然必要なこととされている。しかし、ハイリスク新生児に関しては、可能な範囲で出生直後のカンガルーケア・家族面会を行っているが、NICU入院後は親子が分離された状況となる。重症度が高いほど長期化し親子分離による弊害の発生が危惧される。新生児の最善の利益として感染予防と安静保持の対策の徹底をふまえたうえで面会の充実、家族の絆を形成しやすくし分離の弊害を少なくできる可能性がある。しかし、今回の調査では回収率も低く、また質問紙内容からは両親の支援にどの程度つながったかは明らかにできていない。同胞への面会制限の緩和というニーズも含め、どのような面会を提供し支援していくことが母子関係形成に役立つのか、さらに検討していく必要がある。

IV 結論

1. NICU入院児の両親は、祖父母の支援を必要としており、面会制限緩和する事は母子関係形成に影響を及ぼす。
2. NICUにおける面会は、児と両親に良い影響となる場合は、感染予防・安静保持を考慮した上ですすめても良く両親に限る必要はない。

今後の課題

1. 祖父母面会がどの程度両親の支援となり、母子関係形成に役立ったか退院後の状況も含め確認していく。
2. 面会者の制限緩和や面会様式の再検討と共にプライバシー保護や面会環境の充実を図っていく。

引用文献

- 1) 池内和代：NICUの面会について，小児看護，23（6），678-684，2000.
- 2) 宮崎つた子他：NICU入院を経験した患児をもつ両親への意識調査（第2報），母性衛生，44（1），127-133，2003.

参考文献

- 1) 横尾京子他：NICUにおける面会のこれから，ネオネイタルケア，12（6），9-20，1999.
- 2) 村田恵子：子供の権利・家族の権利と面会，小児看護23（6），713-718，2000.
- 3) 堀内勁〔編〕：NICUチームで取り組むファミリーケア，104-110，メディカ出版，2002.